

政治演説の含意と談話ストラテジー

- シャルリー・エブド事件に対するオランド大統領の演説分析 -

楊 鶴、松田 里沙、水落 理子、木田 剛

1. はじめに

政治演説とは、一般的には選挙運動や議会における政治家による演説のことを指すが、首相や大統領などの国家元首を含めた政府関係者が国民に対して特例的に意見を表明する場合もある。国内で自然災害、人的被害、テロ事件などの国民の注意を引く大事件が起きた場合に記者会見やテレビ演説を行い、国民に災害や事件の状況とその重大さを伝える。これらの演説には、発言者の個人的な意見と政府全体の見解が含まれる。内容は事前に原稿が用意されていたり、突然のインタビューであったりと状況はさまざまであり、またそれにより演説全体の流れも変化する。演説内容は字義通りに伝えられるものもあれば、繰り返しや体の動きといった談話ストラテジーによって、婉曲的にも伝えられるものもある。このように、談話ストラテジーを分析に取り込むことは発話文だけでは感じ取れない政治演説に込められた真意を汲み取るために不可欠である。

本稿では、Charlie Hebdo 社襲撃テロ事件が起こった際、フランスの François Hollande 大統領が大統領官邸で行った公式テレビ演説と路上で行われたインタビューを使用し、両者を比較し分析する。分析は3つの談話ストラテジーを取り上げる。まず、演説中で強調されている単語や頻繁に出現している一人称複数形を中心に、どのような解釈ができるかを明らかにする。次に、演説中に見られる言葉や文の繰り返しの効果について分析を行う。最後に、発話者の顔の動きに注目し、特に眉の動きが政治演説とどのような関係性を持っているかを観察する。まとめとして、この3つの談話ストラテジーを総合的に捉え直し、そこから見出される大統領演説の特徴や含意されているメッセージについて考察する。

2. 分析データ

2.1. コーパス

本稿は、2015年1月7日にフランス・パリで起こった Charlie Hebdo 社襲撃テロ事件に関する、François Hollande 大統領の2つの政治演説を使用する。いずれも、インターネット上に公開されている動画から本文を書き起こし、コーパスを作成したものを使用する。

1つ目は、Charlie Hebdo 社襲撃テロ事件が起こった日（2015年1月7日）の夜にフランス大統領官邸から国民に対して発せられた公式演説である（以下、演説コーパスと呼ぶ）。2つ目は、同日、テロ事件が起きた Charlie Hebdo 社の前で記者のインタビューに答えている様子のものである（以下、街頭コーパスと呼ぶ）。

演説内容は、表1に示すように、それぞれ6パートに分けることができ、各パートによって異なる内容が述べられている。

表 1 コーパスのパート分けと小テーマ

演説コーパス	街頭コーパス
(1) 事件の紹介と死傷者数	(1) 事件の紹介と死傷者数
(2) 全国追悼と半旗	(2) 政府の今後の対応
(3) 自由の表現の毀損	(3) 犯人の逮捕と処罰
(4) 犯人の早期逮捕	(4) 事件後のフランスの状況
(5) 今後の警戒態勢	(5) 団結への呼びかけ
(6) 団結への呼びかけ	(6) 事件の深刻さと今後の態勢

両コーパスとも冒頭に事件の紹介から始まり、中盤で政府の対応を示し、最後に国民に団結を呼びかけるという流れを取っている。両コーパスを比較してみると、内容が前後しているところがあるものの、全体を通して同じような内容が含まれている。これらのパートに沿って分析してみたところ、パートごとに異なる言語的・非言語的特徴が見られた。

2.2. コーパスの記述法

分析に使用する 2 つの動画データは、表 2 にある表記法を用いて記述する。

表 2 コーパス表記法

記号	記述記号の意味
+	ポーズ (+ : 約 0.1 秒)
::	音韻の延長
/	継続的上昇イントネーション
\ (\\)	継続的下降イントネーション (終止的)
MOt	発話の強調
(XXX)	聞きとり困難な発話/作成者の推測
>aaa<	早い発話
XXX	一人称複数形
XXX	フランス共和国
HBS1,2,3...[XXX]	両眉の上下運動
FS1,2,3...{XXX}	眉間のしわ寄せ
{XXXXXXXX}	ストローク (両眉の上下運動の最高点、眉間のしわ寄せの持続)

3. 政治的談話におけるフランス語の We コード

以下に、We コードの概念に依拠してコーパスの分析を行う。

3.1. We コードとは

政治演説では、話し手と聞き手の権利や義務の交渉が行われる。Gumperz (1982) によると、話し手が伝達するコードには、自分を中心に置く「We コード」と他性を示す「They コード」があり、談話においてこれらのコードを使い分ける一種のコードスイッチングが見られる。また「現代言語学辞典」によると、コードスイッチングとは、ある個人が具体的な対話の場に応じてコードを切り替えることである。社会言語学におけるコードの概念は、言語共同体にある社会階層に特有の言語変種を司る記号体系を示す。異なる言語、同一言語内の異なる方言、または同じ標準語内のくだけた言い方と改まった言い方などはそれぞれひとつのコードを成していると言える。談話において、コードを切り替えながら、話し手が聞き手との間の心的距離感を調整することもある。

同一言語内において使われる We コードは親近感を持たせ、心理的距離感を縮める「stratégie de proximité」の役割があり、反対に They コードは排他的な意識を感じさせ、相手と距離を保とうとする「stratégie de distanciation」の役割がある。このような意図を含んだ発話には、自分の発話を真とすると同時に反対する意見や批評を排除するはたらきを持つ (Plantin 2002)。

3.2. 分析

3.2.1. 一人称複数形

一人称複数形の出現は、演説コーパスでは 25 例、街頭コーパスでは 16 例、計 41 例見られた。その内訳を表 3 に示す。

表 3 コーパス内の一人称複数形の内訳

	主語 nous	所有形容詞 notre, nos	所有代名詞 nôtre	目的語 nous	強勢形 nous (-mêmes)	合計
演説	10 (40%)	8 (32%)	1 (4%)	5 (20%)	1 (4%)	25
街頭	16 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	16
合計	26 (62.5%)	8 (20%)	1 (2.5%)	5 (12.5%)	1 (2.5%)	41

3.2.2. 演説コーパス

演説コーパス全体を通して一人称複数が出てくるものの、それぞれのパートで頻度に差がある。(1) では 1 例だけだが、演説が進むにつれて増えていき、(6) では 17 例と、演説内で使用される一人称複数の半数以上を占める。演説の構成は、冒頭部では事件の描写や追悼といったニュースで伝えられるような客観的事実が述べられており、話が進むにつれて Hollande 大統領の個人的意見や意思に基づく主観的発言が中心となっている。このような主観的発言の増加は、一人称が増加する動きと一致している。しかしこれだけでは、一人称単数 je ではなく、あえて複数 nous を用いている意図までは説明することができない。

そこで、一人称複数が出現している文脈を観察する。主語として一人称複数が使われていると

き、導かれる動詞は以下の通りである。(1 : ligne)

- 1.7 nous continuerons
- 1.23 nous défendons
- 1.25 nous devons euh: en prendre
- 1.26 nous devons RÉPONdre
- 1.31 >nous devons< AUSSI protéger
- 1.34 nous + devons
- 1.45 RAssemblons-nous
- 1.45 nous] GAgmons
- 1.46 nous avons
- 1.47 Rassemblons-nous

上記から準助動詞 *devoir* と *nous* が共起する例が最も多いことがわかる。Searle (1969) の言語行為論の分類に当てはめると、*devoir* は行為指示型の発話行為を示し、聴衆への「こうするべきだ」という訴えかけが含まれている。また *vous devez* ではなく *nous* を用いていることから、大統領を含めた国民全員を指し、国民との「一体感」を表していると考えられる。

これについて、たとえば、1.12 *notre reconnaissance* にて一人称複数を用いるのは「自分の」認識ではなく「我々の」認識とすることで、国民全体で同じ認識を共有し、足並みを揃えようとする意図が読み取れる。また、(6) のパートで *rassembler* という「団結」を連想させる言葉と一人称複数 *nous* が共起していることから、自分を含むフランス国民(= *nous*) が団結するという意図で一人称複数を用いられているのではないかと考えられる。

しかし、一人称複数が使われているからといって、全ての一人称複数が等しく「国民」を指すとは言えない。たとえば、以下のような例がある。

1.37-38

deMAIN/ je réunirai/ les présidents des deux assemblées/ ++ ainsi que + les euh:: forces représentées au parlement\ + pour montrer/ *notre comMUNE/ détermination*\\

まず、冒頭の主語 *je* は *Hollande* 大統領自身を指していることは明白である。大統領が「閣僚会議を開」いて「我々の共通方針を提示する (*montrer/ notre comMUNE/ détermination*)」のだから、このときの *notre* は国民ではなく大統領と閣僚を含んだ「政府」と解釈した方が適切である。このように政治演説の場で一人称複数が現れたからといって、必ず *We* コードになると決めることはできない。一人称複数を含んだ発話が *We* コードとなるかどうかは、文脈を考慮して判断しなければならない。

3.2.3. 街頭コーパス

一方街頭コーパスでは、一人称複数主語は主語の位置のみで観察された。演説コーパス同様、一人称複数が使われているとき、導かれた動詞を以下に列挙する。

- 1.7 ((nous)) n'avons pas enCOre
- 1.9 nous aurons
- 1.12 nous devons assurer
- 1.14 nous avons donc + engagé
- 1.21 nous sommes un pays uni,
- 1.22 nous savons euh réagir,
- 1.25 nous sommes dans un moment ^{FS5}{EXtrêmement difficile/}
- 1.26 ^{HS3}[nous savions
- 1.26 nous étions euh] menacés/
- 1.27 nous sommes + >menacés
- 1.28 nous sommes un pays de liberté\
- 1.28 nous sommes un pays de liberté/
- 1.28 nous conjurons
- 1.29 nous euh punirons
- 1.33 nous en sommes là,
- 1.33 nous aurons à cœur

以上の街頭コーパスでの nous に導かれる動詞を見ると、演説コーパスで多く見られた nous + devoir の出現が少なくなり、演説コーパスでは見られなかった être を伴うことが多い。このため、主観性や行為指示を伴う演説コーパスとは異なり、全体的に断定的な印象を受ける。

また、nous sommes un pays～という表現が複数見られる。属詞 un pays は人ではないため、nous を「我々」と捉えるのは不自然であり、nous が指すのは国 la france である。この発話で nous が主語として使われている理由も、「団結」のためではないかと考える。ここでの nous は「我々＝フランス国民」と捉えた上で「国民の集団＝国」の中に、つまりフランスという枠の中に「我々」を位置づけさせることで、単なる「国民」では言い表せない団結意識を持たせようとしている意図が感じ取れた。言い換えるならば、「la france＝我々によって構成されるフランス＝nous」という構図になる。

以上の二つのコーパスを総合的に分析すると、二点の特徴が挙げられる。

- (1) 「団結」や「一体感」を印象づける効果があり、それに関する語彙と共起することが多い。
- (2) 文脈によって指す集団や意味が変化する。

また、人称以外の主語に注目してみると、la france と la république が頻繁に使われている。上述するように、nous で置き換えられることから、これらの表現も We コードに属する。さらに言え

ば、このような置き換え可能性により「フランス国家」に帰属する国民として団結を促す意図が含意されている。ところで、nous と la france / la république の間には使い分けの基準はないのだろうか。

3.3. la france と la république

nous と la france/la république を比較する前に、国としての「フランス」を示す la france と la république の違いについて述べる。

la france は演説コーパスで 8 例と街頭コーパスで 3 例、la république は演説コーパスで 4 例と街頭コーパスで 3 例あった。数だけ見ると、la france の方がいくぶん多く使用されているが、違いを議論できるほどの数とはいえない。そのため、使用頻度の差については論じず、それらの語が使われる文脈から意味の違いを考察していく。

3.3.1. La france

二つのコーパスの冒頭部はいずれも事件の描写や被害者について語られているが、ここで共通して現れているのが la france である。

演説コーパス 1.1-2

aujourd'hui/ la france / + a été attaquée en son cœur +++ à paris ++ dans les locaux mêmes + d'un journal \

街頭コーパス 1.3-4

qu'ils pouvaient aGI::r + en FRANCE ++ pour: + défendre leurs idées \

事件の概要といった客観的な情報は、主観性が強い一人称複数とは共起しにくい。そのため、la france を使用した方が一人称複数 nous を用いるよりも客観性が高まる。冒頭以外で出現する la france について見ると、reçu des messages（演説コーパス 1.25）や surmonter des épreuves（演説コーパス 1.41）のように「フランス（国）」としても「フランス国民」としても意味が取れる発話と、qu'ils pouvaient aGI::r + en FRANCE（街頭コーパス 1.3）のように場所の補語位置に現れて「フランス(国)」としか解釈できない例の二つがある。したがって、la france を用いた場合、国としての「フランス」というただ一つの意味には定まらず、さまざまな解釈ができると言える。

3.3.2. La république

一方 la république には国民を指す意味はなく、国としての「フランス共和国」の意味しかこのコーパスでは示していない。ただし、フランスの主義や信念など、抽象的な文脈で使われていることが、la france との明らかな違いであろう。これは、la république の本来持つ「共和国」という意味が関係していると思われる。演説テーマの一つである「liberté」を強調するため、国を示しうる la france よりも、政体を指す la république の方が意味論的に親和性の高いことが影響してい

ると考えられる。

以上の分析から、la france は la république よりも語彙の意味範囲が広く、また文脈により高い客観性を示しうると言える。そして la république は「フランス」と同義語であるが、場所的なものとしては使われず、関連する語彙体系に結び付けるために、本来の意味である「共和国」として出現する。

3.4. We コードとしての一人称複数、la france、la république の使い分け

これまでの分析から、一人称複数 nous、la france、la république の区別について以下のように一般化できる。

まず一人称複数について、政治演説における一人称複数は「国民」「フランス」「政府」の三つに分類できる。本稿で使用するコーパスに現れる割合を表 4 に示す。

表 4 一人称複数の意味の大別（合計の割合は小数点以下四捨五入）

一人称複数 nous の意味	国民	フランス（国）	政府	合計
演説コーパス	22 (88%)	1 (4%)	2 (8%)	25
街頭コーパス	9 (56%)	3 (19%)	4 (25%)	16
合計	31 (76%)	4 (10%)	6 (15%)	41

一人称複数には「自分と周囲の人々」の意味が根幹にあり、人の集合を指す。そのため一人称複数が「フランス」を指すときも、フランスという枠内にいる「人」中心の国の捉え方である。それに対して la france が使われる場合はそれと異なり「国」が中心にあり、その枠組み自体に重点が置かれている。la république は一人称複数や la france と比べて独特で、la république 自体の意味による影響が大きい。しかし、今回の「liberté d'expression」といったような政治的なテーマと結びつきやすいため、We コード的な意味を帯びながらも、特定の文脈に現れやすいのではないかと考えられる。

3.5. 考察

分析により、フランス語で We コードとして現れるのは人称だけではないということ、同じ We コードでも指示する意味が文脈によって変化するということがわかった。

最も We コードとなりやすい一人称複数については特に文脈による意味の変化が大きかったが、しかし We コードの効果という点から考えると、団結意識を印象づけるのは「国民」と「フランス」の二つであり、「政府」の意味で使われたとき聴衆を含むとは考えにくい。したがって、一人称複数 nous が出現したからといって、すべてが We コードとしての役割を担っているわけではない。

また、la france も同様に言葉の意味範囲が広く、文脈によるところが大きい。それに加えて「フランス＝フランス国民（の集合体）」とする場合、意味の区分を「フランス（国）」とするか「フ

ランス国民」とするかはっきりと区別して解釈するのが難しく、一人称複数のように意味別に分類することができなかった。

全体を通して、政治演説における We コードの役割は「聴衆の団結意識を強めること」であると言っているだろう。特にフランス語は la france や la république が We コードになりうることから、「国＝国民」という意識が強いということ进行分析から導くことができた。

4. 繰り返しとリズムの視点から

発話の中に見られるコードスイッチングのように、言語活動にさまざまな特徴があり、ある特定の意味を談話に与えることがある。特に目的に応じて相手に自分の発言を印象づけるような場面においては、言いたいことを繰り返すことで談話にリズムをつけ、言語運用に関する技術が規則的に使用されていることが多い。本節では、繰り返しや談話リズムに着目し、二つのコーパスの中にみられる特徴やその効果を分析する。

4.1. 演説コーパス

演説コーパスの中で繰り返しが見られた部分を抽出した。今回取り扱う繰り返しとは、言葉の反復、語句の反復、言語形式の反復など、さまざまな形が考えられる広義での「反復」を意味する。単語の繰り返し、句の繰り返しを含む単語の場合、同じ文中に登場するもののみを分析対象とする。コーパスには句読点は含まれていないため、ポーズやイントネーション、文脈等から 1 文を判断する。さらに、2 つの文の文頭の語が同じ場合でも繰り返しとみなす。

コーパスで観察された繰り返しを以下の①～⑨の例で示す。⑨については同じ単語ではないが⑧と同様のことを意味しているとみなし、⑧と併せて 3 回の繰り返しの分類する。⑧では別の繰り返しも含まれるが、その部分は独立させて分析を行う。表 5 にそれぞれの繰り返しの回数を示す。

- ① 1.5-6 ^{HS5}[des g^{éné}rations] et des g^{éné}rations de français\\
- ② 1.7-8 ce message >^{HS6}[ce m^{ess}age] de la liberté/<
- ③ 1.19-20 la république
- ④ 1.25.26.31.34 nous devons
- ⑤ 1.35 notre unité\ + l'unité euh:
- ⑥ 1.36 ^{HS13}[RIEN]
- ⑦ 1.40 au meilleur niveau\ ^{HS17}[± c'est à dire] + ^{FS8}{à S^{ON} niveau\ ++ le NIVEAU euh: +}
- ⑧ 1.44 >le Rassemblement ^{HS19}[le R^{as}semble] ment de TOUS<
- ⑨ 1.45.47 RAssemblons-nous

表5 繰り返しの回数

回数	例文
2回繰り返し	①、②、⑤、⑧
3回繰り返し	③、⑥、⑦、⑧－⑨
4回繰り返し	④

4.1.1.2 回繰り返し

①、②、⑤、⑧は1回目が産出された後、まったく同じ単語が繰り返されており、かつ1回目の単語に補足される形で発話されている。⑤では、完全に同じ単語が繰り返されているわけではないが、最初に産出した *unité* の説明を直後の *l'unité* が受けていると考えられる。このように分析すると、この談話における2回繰り返しは語句の強調のためというよりは、言い直しのために用いられていると考えられる。特に②と⑧では、繰り返しにおける発話スピードが速まっており、一旦産出したもののそれが不完全であったため、滑り込み的に言い直したと捉えられる。このような発話の再構築に付随する繰り返しは、自分の言いたいことの完全体を発話することを目的としているため、印象付け等の技術とは関連性が低いと考えられる。

4.1.2.3 回繰り返し

繰り返しが3回行われる場合、注目するポイントとして、⑥と⑨は単語の始めにアクセントが置かれていることと、③、⑨は「フランス」「私たち」というような、メッセージテーマである団結や一体感の意味合いを持つ語であるということが指摘される。これらのことから繰り返しの目的は2回繰り返しの場合と異なり、発話内容の強調だと考えられる。

さらに、「3」という数字に注目してみる。物語の世界においてはものごとが3回起こると完結する（安井 2007）。例えば桃太郎は3匹の仲間と出会って鬼退治ができる、シンデレラは3回目の宮殿訪問で王子様とダンスができる、不思議の国のアリスでは身体変化を3回繰り返す、というようなものである。日本語においては日本三景、三種の神器、三大美女というような、3つを1セットにした表現が多い。また英語において *He is very, very, very old* というような繰り返しや関係詞節の組み込み (*self-embedded construction*) も、3回までは容認されるが4回以上は耳障りとなり容認不可となる。以上のことから「3」という数字には安定感や充足感をもたらす働きがあり、談話においてはしつこくなりすぎずに聞き手の注意を引いたり、相手に自分の印象を残したりするための効果を発揮すると考えられる。また、3回以上の繰り返しばしばスピーチに勢いがつき、メッセージの刷り込み効果が高くなる。しかし、だからと言ってむやみに繰り返しの回数を増やせば良いというわけではない。Grice (1989) の「求められているだけの情報を提供せよ」という会話の公理（量の公理）を考慮すると、むやみな繰り返しはこの公理に違反してしまう。つまりわかりやすさ・容認度の高さ等の観点からも繰り返しは3回が最大であると言える。

以上のことから、この談話においては3回繰り返しが最も説得効果のあるレトリックであり、

強調やメッセージの刷り込みのための技術として用いられているのではないかと考えられる。

4.1.3. 4 回繰り返し

コーパスにおける 4 回繰り返しは④のみである。ここで注目すべき点は 3 回目までの *nous devons* と 4 回目の *nous devons* の発話の仕方の違いである。1 回目と 2 回目はほとんど同じように発話され、3 回目は 1 回目や 2 回目と比較すると、1.31 >*nous devons*< というように少し発話スピードが速くなっているが、おおよそ同じであると考えられる。しかし 4 回目は 1.34 *nous + devons* +++ *être* というように単語間に少々の間合いが見られ、3 回目までとは異なる方法で産出されている。このような産出方法の違いや、発話内容も考慮に入れて繰り返しについて考えると、1~3 回目と 4 回目を分けて考えるのが妥当であると思われる。そうすると前半は 3 回の繰り返しとなり、「3 回の効果」が発揮されることを意図した技術的な談話構成であると考えられる。また 1 回目と 2 回目においては *nous devons* の後に *en prendre* と *répondre* が続いており、継起的音喩のようなレトリックを駆使した、聞き手の印象に残るような談話ストラテジーと捉えられる。

4.2. 並列と談話リズム

並列の特徴は、全く同じ語句が繰り返されているわけではないが、同じ前置詞等のある共通の語を用いて、その後にいくつかの単語を並べていることである（頭語反復、類似反復のようなものとする）。これらの特徴は、これは繰り返しの中でも構成の反復にあたるものであり、その下位カテゴリの「並行」に分類されることが考えられる。以下に、並行の例を示す。

- (1) 1.4-5 + *par leur influence*/ + ^{HS3}[*par leur inso*]LENce\ + *par* ^{HS4}[*leur*] INdépendance
- (2) 1.13 *aux familles* + *aux éprouvés* + *aux blessés* + *aux PROches*
- (3) 1.20-21 ^{HS11}[*c'est la cūlTU:re*] *c'est la CRÉA*tion *c'est le pluralisme* *c'est la démocratie*

それぞれの並行について観察してみると、(1) は *par leur* に導かれ 3 回、(2) と (3) は *aux* と *c'est* に導かれ 4 回と、並行されている語の回数は異なるものの、各フレーズにおける単語間の間合いはほとんど同じである。その結果並行によって談話にリズムが産出されることが考えられる。実際の演説においても、ある一定のリズムで並行がなされており、これによって聞き手の注意を引いたり、聞き手の印象に残そうとしたりするような意図があるのではないかと考える。

石黒 (2007) はこのような反復に「執着の機能がある」と述べ、繰り返されることばによって統一感を生み出すとしている。ここでは音によって類似性が出現している。さらに (1) については、継起的音喩が用いられており、音の反復による効果も同時にうみだすために、繰り返しが 3 回で止められているとも考えられる。また (3) についても、*c'est*~という文の形に導かれ単語の並行が生起している。ここでは、主題である *république* が何なのかを並行を用いて強調し、国民に対して訴え、ともに確認することによって団結を促していると考えられる。

4.3. 街頭コーパスとの比較

街頭コーパスのインタビューもテロ事件があった直後に行われたものであるため、内容は演説に共通しているが、いくつかの相違点も見られる。まず繰り返しがほとんどない点である。繰り返しが行われている箇所を以下に示す。

[1] 1.2 un journal^{FS2}{un journal/

[2] 1.18 un CHOC + un^{FS4}{CHOC:

[3] 1.27-28 parce que nous sommes un pays de liberté< >et parce que nous sommes un pays de liberté/<

また、並行が観察されるのは以下の部分のみだった。

[4] 1.18-19 celui d'un attentat/^{HS1}[çar] c'est un ATTENTAT\}

[1]、[2]、[3] における繰り返しの回数はそれぞれ 2 回である。[1] の un journal は直後に journal の内容を説明するような発話が続いており、同様に [2] choc の内容を説明するような発話が続いている。[3] においては前後の文脈から特に意味のない単なる繰り返しであると考えられる。また、並行も演説コーパスと比較すると少なくとも 1.18-19 の一箇所のみであった。このようなインタビューにおける繰り返しや並行の特徴として、言い直しや説明を追加するために行われていることが多く、言いたいことの強調や聞き手への印象付けを目的としているわけではない、という点が挙げられる。これは演説とインタビューの談話形式の性格の違いが関係していると考えられる。すなわち、演説は事前に原稿や言いたいことが準備されている場合が多く、かつスピーチ内容を相手の心に響かせることを目的とする一方、インタビューは突如行われる場合が多く、原稿や言いたいことを準備する時間は演説と比較すると少ない。また自分の考えをはっきりと述べることに重点が置かれる。その結果、演説は印象づけのテクニックとして繰り返しやリズムづくりが意図的にされているのに対して、インタビューでは唐突な談話のため技術的なものは取り入れにくく、繰り返しや並行は言い直し等のためにされることが多いと考える。

4.4. まとめ

演説コーパスと街頭コーパスの比較を行った結果、演説コーパスにおいて繰り返しや並行といったレトリックがより用いられていることが明らかとなった。このようなレトリックを談話中に取り入れることによって、言いたいことの強調や、聞き手をスピーチに注目させたり印象を与えたりする効果があることがわかった。演説コーパスにより多く観察されたのは、演説の目的に合致した談話術であったからであると言える。

5. 眉の動きが果たす役割

対話中、私たちは聴覚を通して聞き手の言葉を音声として取り入れて理解しているが、視覚か

らも意識的に、あるいは無意識に情報を取り入れている。テレビの政治演説の場合においても同様なことが言える。演説者は画面を介してさまざまな談話ストラテジーを使用し、視聴者に言葉を伝えている。本節では、発話に伴う眉の動きに焦点を当て、両眉の動きが政治演説においてどのような意味をもたらしているのか、単語や発話文、更に繰り返しや並列との関係性を明らかにしていきたい。

5.1. 眉の役割

人は眉を動かすことで泣き顔、困った顔、怒った顔など、さまざまな表情を作り出すことができる。眉は感情伝達手段の一つであり、表現が意識的に作られるものと無意識に作られるものがある。話し手は発話中に自分の眉の動きをコントロールしにくく、また直接見ることができないため無意識に動かしている場合が多い。聞き手も眉の動きを無意識に捉え、発話内容を理解するための要素の一つとして、相手の感情を読みとっていると思われる。「目は口ほどに物を言う」ということわざがあるように、眉も口ほどに物を言い、時には口以上にものを言う場合もある。例えば、眉を動かすことで返事をしたり、驚いたりすることなどが挙げられる。

眉の動きは一つの発話マーカーとして、発話となんらかの関係があると思われる。Guaitella et al. (2012) は対話中の眉の動きを7種類に分類した。それによると、眉の動きは発話開始マーカーとして、発話開始時や発話に先立って動きが見られる。このような現象は、聞き手の注意を引きたいという話し手の気持ちが込められている。また、相手との会話を保ちたいという願望があるため、文の最後に動きが見られることもある。眉の動きは強調したい、また強く発話されている言葉と共に起し、その言葉に合わせて上下運動を行うこともある。今回の政治演説分析では、7種類の中で最も観察された「上がって下がる」(／＼) 上下運動と思われるものだけを分析対象とする。これに加えて、眉間にしわを寄せる運動も分析対象とし、対話中形式ではない政治演説においても、強調したい単語に合わせて動きが見られるかを観察し、単語の繰り返しや並列との関連性、またそれ以外にも別の特徴があるのかを観察していく。

5.2. コーパス分析

両眉に見られる上下運動（以下、両眉の上下運動と呼ぶ）と眉間にしわを寄せる運動（以下、眉間のしわ寄せと呼ぶ）を見ていく。分析では、まず両眉の上下運動の説明をし、次に演説コーパスと街頭コーパスに分けて観察していく。眉間のしわ寄せに関しても同じような方法で分析を行う。

5.3. 両眉の上下運動

一般的に両眉の上下運動が見られるのは驚いたり、何かを思い出そうとしたりする時である。政治演説の中では驚きや喚起というよりも、両眉の上下運動を用いて言葉の強調しているように思えた。ここで示した両眉の上下運動は「上昇・最高点・降下」の3つの運動から成っている。まず、準備段階と呼ばれる上昇運動とともに両眉が上がり始める。次に、強調されている言葉に

合わせて一番高い最高点まで上がり、最後に降下運動とともに下がっていくという一連の動きになっている。この一連の動きを図 1 に示す。

1.5-6 ^{HS5}[des générations] et des générations de français\ +++

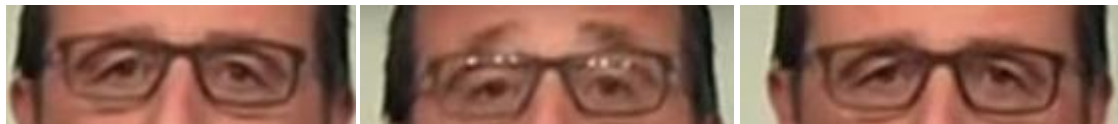


図 1 両眉の上下運動

図 1 では、1.5-6 に両眉の上下運動が見られた。例 1 では、des に合わせて眉の動きが始まり、点線で下線が引かれている *géné* の部分で最高点にたし、そして *ractions* に向って下がり始めた。この例からわかるように、両眉の上下運動は強調したい言葉に先立ち始まっており、最高点で強調し、次の言葉にかかりながら下がり始めていた。そして発話が終わると同時に両眉ももとの位置に戻るといふ一連の動きとなっている。この例で観察された動きをもとに両コーパスの分析を行う。

5.3.1. 演説コーパス

演説コーパスでは、両眉の上下運動が 20 回、眉間のしわ寄せが 9 回観察された。コーパスの 6 つのパートに沿って見ていくと、2 つの眉の動きは(1)、(3)、(6) の 3 パートに集中しており、パート (2) では眉間のしわ寄せのみ観察された。ここでは分析対象としていないが、眉の動き以外に観察されたジェスチャー（両手の動き、頭の動きなど）は単語全体や発話文全体にわたって見られることが多いが、眉の動きは単語の一部に見られることが多かった。また、*la france* や *la république* のような、イントネーションによって強調されている単語に合わせて両眉の上下運動が最高点に達している現象が多く見られた。片眉の動きも 3 回観察されたが、ここでは分析対象としない。

5.3.1.1. 主題化 (La thématisation)

演説コーパスの 1.38-43 にかけて観察された *la france* 「フランス国」を意味していると思われる 3 例（例 2、例 3、例 4）を取り出して分析していきたい。（両眉の上下運動の始まりと終わりを青色で示してある）

1.38-43 la FRANCE ^{HS16}[elle est GRANDe + quand elle est CAPABle ^{FS7}{DANS UNE épreuve+} de::] + se mettre au meilleur niveau\ ^{HS17}[± c'est à dire] + ^{FS8}{à SON niveau\ ++ le NIVEAU euh: +} qui a toujours fait que la FRANCE + a + pu surmonter des épreuves\ +++ la liberté/ sera toujours plus forte que la barbarie\ ++ >la FRANCE ^{FS9}{elle a >TOUJOURS vaincu ses ennemis/<} quand elle a su ^{HS18}[justement] faire BLOC< auTOUR + de SES valeurs\

例 2 ^{HS16}[elle est GRANDe + quand elle est CAPAble ^{FS7}{DANS UNE épreuve+} de::]

例 3 ^{HS17}[± c'est à dire]

例 4 ^{HS18}[justement]

この 3 例はいずれも、フランスは偉大で強いということを伝えている。しかし、フランスという「国家」ではなく、試練を克服し、強いフランスを作っていたのは「フランス国民」であり、国民を指していると考えた方が妥当である。この例ではフランスという表現の前後に両眉の上下運動が見られた。

1.38 +++ [la FRANce] elle est ^{HS15}[GRANDe

1.38 を詳しく見て行くと、elle est ^{HS15}[GRANDe は「フランスは偉大である」と解釈できる。眉の動きは la france ではなく、GRAND 偉大という表現に合わせて上昇している。つまり、話し手は最初に強い発話イントネーションによって la france を強調し、すぐ後ろにフランスはどういうものなのかという説明をしている。両眉の上下運動は、テーマ (thème) であるフランス、つまり発話によって強調されている la france と共起しているのではなく、前後の説明部分と共起していると言える。

5.3.1.2. 繰り返しと強調

両眉の上下運動は、言葉の強調とも関係すると思われる。第 2 節で言葉の繰り返しについて述べたが、特に 3 回の繰り返しが見られた例をさらに詳しく分析する。3 回の繰り返しには、いずれも眉の上下運動が見られた。

1.19-21 aujour ^{HS8}[D'HUI/ c'est [la RÉPUBLIQUE] tout entiÈRE\ qui a été agressée\ + ^{HS9}[la république/] ^{HS10}[c'est la liberté] d'expression\ + [la république/] ^{HS11}[c'est la cùlTU:re] c'est la CRÉAion c'est le pluralisme c'est la démocratie

1.35-37 face à cette >épreuve\ ^{HS14}[RIEN]< ne peut nous diviser ++ RIEN ne doit nous >opposer ^{HS15}[RIEN]< + ne doit nous séparer\

1.39-40 se mettre au meilleur niveau\ ^{HS17}[± c'est à dire :] + ^{FS8}{à SON niveau\ ++ le NIVEAU euh: +}

1.19-21 の例では、la république の重複が 3 回見られた。動きに注目してみると、最初の la république に両眉の上下運動が見られ、強いイントネーションとともに言葉を強調している。2 回目と 3 回

目では、la république ではなく、その後ろの c'est ~ という説明部分に動きが見られた。これは la république, c'est ~ つまり、A, c'est B = 提示文 (présentatif) と左方転位 (dislocation à gauche) の文の形であり、A の強調単語ではなく、B の説明部分に上下運動が見られた。すべての提示文に眉の動きが観察されるとは言い難いが、少なくとも、この演説では提示文に両眉の上下運動が観察された。

5.3.1.3. 提示詞

両眉の上下運動は提示詞との共起することで強調を強めていると考えられる。以下の例に示す。

1.21 c'est ^{HS11}[ÇA] qui était visé

1.44 sous toutes ses formes + ^{HS19}[VOILA] ce qui doit être notre réponse\

5.3.2. 街頭コーパス

街頭コーパスのパートに沿って見ていくとパート (4) で 2 回、パート (5) で 1 回、合わせて 3 例の両眉の上下運動が観察された。演説コーパスで観察された 20 回に比べて少なかった。以下に 3 例を示す。

1.18-19 un attentat/ ^{HS1}[car] c'est un ATTENTAT\ +++ terroRistes\

1.20 un journal qui avait été toujours menacé\ ^{HS2}[et qui était ++] justement protégé\

1.26-27 déjoués ces dernières semaines// ^{HS3}[nous savions que nous étions euh] menacés/

5.3.2.1. 接続詞 car

1.18-19 では原因を表す接続詞 car に両眉の上下運動が見られた。すぐ後ろの Attentat では、イントネーションによる強調が見られる。ここで、文全体を取り出し意味を考えてみる。

[la FRANCE]: ++ est aujourd'hui devant un CHOC + un ^{FS4}{CHOC: qui est celui d'un attentat/ ^{HS1}[car] c'est un ATTENTAT\} +++ terroRistes\

Car の用法として、文頭で結果が述べられ、car 以降に原因が付加される。フランスはショックに直面していて、そのショックの原因として c'est un attentat、つまりテロ行為を受けたからである。この原因を両眉の上下運動を使い更に強調していると思われる。また、すぐあとの attentat が強く発話されていることから、上下運動は言葉の強調に先立ち行われたと考えられる。これによって、事件の重大さを更に強めて伝えている。

5.3.2.2. 関係代名詞 qui

1.20 では関係代名詞 qui で上下運動が行われていた。

1.20 un journal qui avait été toujours menacé^{HS2}[et qui était ++] justement protégé\

この例では、関係代名詞 **qui** が 2 回出てくるが、2 回目に両眉の上下運動が見られたことに注目してみたい。2 回目の **qui** はその前の **un journal** を主語として受けているが、主語である **journal** ではなく、それを繰り返しの効果を使い、2 回目の関係代名詞に上下運動を置くことで強調させていると思われる。さらに、**qui était (être)** と **être** 動詞の時に動きが見られた。第 2 節において、**nous** の動詞として **être** を伴う場合が多く、全体的に断定的な印象が強いと述べたが、眉の動きが **être** と共起していることも、断定的で「守られていたはずの新聞社」が襲われた事実に対する衝撃を強調していると思われる。

5.3.2.3. nous との共起

街頭コーパスで見られた 3 回目の両眉の上下運動は **nous** と共起していて、国民を強調している。

1.26-27 déjoués ces dernières semaines//^{HS3}[**nous** savions que **nous** étions euh] menacés/

以上の分析により、街頭コーパスで見られた両眉の上下運動は、演説コーパスと同様に、**nous** のような強調されている言葉と共起しているが、強調される表現の前後の説明部分とも共起していることがわかった。

5.4. 眉間のしわ寄せ

眉間にしわを寄せる運動は、考え事、困惑、深刻な問題が起きた際の発話とともに見られる。これは話し手の感情表現の一つであり、また聞き手にこれから発話する内容が深刻であり、重大であり、話し手または聞き手が困難な状況であることを前もって眉の動きで伝えようという。

図 2 に示すように、眉間のしわ寄せも「寄せる、持続（寄せ続ける）、離す」という一連の動きを 3 つの部分に分けることができる。

1.1 +++ une exceptionnelle barbarie + vient d'être commis ici::} à paris\



図 2 眉間のしわ寄せ

この一連の動きは、まず発話ポーズとともに両眉を寄せる動きから始まり、これから深刻な話をする事と、それが重大であることを話し手に伝えようと準備をしているように思われる。次

に、**barbarie** に向って両眉が最も強く寄せられていて動きが持続している。これは今までにない重大なことが起こってしまった、困ったことが起こってしまった事実と関連していて、強い動きとなったと思われる。そして、**vient** からだんだん眉の動きが収まっていく。その後表情を戻し、テロ事件でフランスは混乱しているけれど、まずは何が起きたかを国民に伝え、国民と一緒に頑張って向き合おうという心情がうかがえる。

5.4.1. 演説コーパス

演説コーパスでは、眉間のしわ寄せは全部で9回、パート (1)、(2)、(6) に見られた。この中から8例を取り出し、それぞれが示す意味を考えてみたい。表6にまとめると以下の傾向が見られる。

表6 しわ寄せ運動が表す意味

深刻さを表す表現	FS1 {morts\] ++} FS3 {ce LÂche attenTAT également tué}
人物を示す表現	FS4 {hommes/} + FS5 {cette femme/} FS6 {TOUTE la population}
フランスの現況を示す表現	FS7 {DANS UNE épreuve+} FS8 {à SON niveau\ ++ le NIVEAU euh: +} FS9 {elle a >TOUJOURS vaincu ses ennemis/<}

表からわかるように、演説コーパスで観察された眉間のしわ寄せは3種類の意味領域に分けられるが、いずれも事件にもっとも関連のある表現になっており、事件の状況、犠牲者、そしてフランスが置かれている状況という順番で眉の動きが観察された。また、**mort** や **tuer** と共起していることから、事件の深刻さが表れている表現に眉間のしわ寄せとの親和性が高いと言える。

5.4.2. 街頭コーパス

街頭コーパスでは、眉間のしわ寄せを5回観察できた。いずれも、テロ事件にかかわる表現が含まれており、深刻さを示している。その中から3例を取り出し、強調イントネーションとの関係を見ていく。

- 1.1 FS1 {il y a un Acte:: + +++ une exceptionnelle barbarie + vient d'être commis ici::} à paris\
1.18-19 un CHOC + un FS4 {CHOC: qui est celui d'un attentat/ HS1 [car] c'est un ATTENTAT\} +++
terroRistes\
1.25 nous sommes dans un moment FS5 {EXtrêmement difficile/}

眉間のしわ寄せが行われている文や単語を見てみると、1.1 barbarie、1.18.19 choc, un attentat、1.25 extrêmement difficile、これらの表現はいずれも深刻な問題や事柄が起きた時に使われる。また、その部分の強調も見られる。つまり、イントネーションで関連語句を強調した上でさらに眉間のしわ寄せで強調を強め、国民に訴えていると思われる。

6. 全体のまとめ

We コード、繰り返し、ジェスチャーの 3 つの観点から、政治演説を分析した。演説コーパスでは国民に聞かせる、または訴えるという目的を持つため、We コードが頻出した。We コードを使用することで国民へ呼びかける効果を産出し、団結を促そうとする意図があると考えられる。一方、街頭コーパスでは自分の主張を表明することに重点を置いている。よって We コードや談話ストラテジーの出現が少ないという特徴が見られた。このような現象は街頭演説で原稿などの準備が正式演説と比べてなされてないためである。したがって、両コーパスの談話形式の違いが、このような談話ストラテジーの現れ方に影響を与えると考えられる。

眉の動きに関しては、両眉の上下運動は発話に先立ち、イントネーションにより強調されている語句と共起している。この点は先行研究と同じような結果となったが、今回の分析で、上下運動においては必ずしも強調したい表現と共起しているわけではなく、強調している語句の前後、またはその表現に対する説明部分（接続詞、関係代名詞など）に多く見られた。眉間にしわを寄せる運動では、困難、残虐、ショックなどのような深刻さを表す語句と共起し、強調されていた。

全体を通して 3 つの談話ストラテジーすべてが含まれている部分は、演説コーパスの 1.18-19 にかけての la république の部分だった。この部分では、la république が 3 回繰り返されており、眉の上下運動も見られた。加えて、la république はフランスの本来の姿を表す「表現の自由」といったような語と結びつきやすいため、特に多くの談話ストラテジーが使用されていた。したがって、3 つのテーマは全て「訴えかける」ことに重点を置くために用いられていたと考えられる。

7. おわりに

本稿は、Hollande 大統領の演説を分析し、「政治演説」というジャンルの中に現れる談話ストラテジーを分析した。このジャンルの談話には様々なストラテジーが使用されており、今回の分析では、これらの談話ストラテジーは国民の団結を訴えるために行われているものだということがわかった。事件に対して行われた他国の政治家による演説と比較することで、団結を呼び掛けるものとは異なる談話ストラテジーが使用されている可能性がある。

また、本稿の執筆中に、パリが連続テロ事件（2015 年 11 月 13 日）に再度襲われてしまい、事件を取り巻く国内外の悲痛な感情、怒り、悲しみは筆舌に尽くしがたい。これらの感情が言語表現、談話ストラテジー、非言語表現などでどのように表現されているのか、本稿の分析と比較してみたい。

参考文献

- 東照二 (1997): 『社会言語学入門：生きた言葉のおもしろさにせまる』 研究社.
- 田中春美他編 (1988): 『現代言語学辞典』 成美堂.
- 石黒圭 (2007): 『よくわかる文章表現の技術－文体編－』 明治書院.
- 佐々木健一監修 (2006): 『レトリック辞典』 大修館書店.
- 安井泉 (2010): 『ことばから文化へ 文化が言葉の中で息を潜めている』 開拓社.
- Plantin, C. (2002) : « Analyse et critique du discours argumentatif », Roselyne KOREN et Ruth AMOISSY (Eds), *Après Perelman*, Harmattan, pp.229-263
- Guaitella, I., Cavé, C., Santi, S., Lagrue, B. (2012): « Quels rôles jouent les mouvement de sourcils dans l'interaction ? », Vion, R., Giacomi, A., Vargas, C. (dirs), *La corporalité du langage : multimodalité, discours et écriture*, Aix-en-Provence, Presses Universitaires de Provence, pp11-26.
- Gumperz, J. (1982) : *Discourse strategies*, Cambridge, Cambridge University Press.

(よう つる／まつだ りさ／みずおち りこ／きだ つよし)

参考資料 1 : 演説コーパス

(Source : https://www.youtube.com/watch?v=Upk3_1Tb6VY)

(1) 事件の紹介と死傷者数

- 1 mes chers compatriotes\\ ++ aujourd'hui/ la france/ + a été attaquée en son cœur +++ à paris ++
- 2 dans les locaux mêmes + d'un journal\\ ++ : cette fusillade d'une violence extrême/ ++ a tué
- 3 Douze personnes et en a blessé plusieurs\\ ++ des dessinateurs de grand talent\ + ^{HS1}[des
- 4 chroniqueurs] courageux + ^{HS2}[sont ^{FS1}{morts\\} ++] ils avaient MARQUÉ euh:: + par leur
- 5 influence/ + ^{HS3}[par leur insou]LENce\ + par ^{HS4}[leur] INdépendance des ^{HS5}[générations] et des
- 6 générations de français\\ +++ ^{FS2}{je veux ++ ici euh::} + leur dire\ +++ que ce message >^{HS6}[ce
- 7 message] de la liberté/< ++ nous continuerons à le défendre\ + en leur nom\\ +++ ^{FS3}{ce
- 8 L'Âche attentat également tué} les DEUX/ policiers\ +++ ceux:: là Mêmes qui étaient chargés
- 9 ^{HS7}[de protéger charlie hebdo ++ et la rédaction de ce journal/ qui était menacée/ + depuis DES
- 10 ANNÉES + par l'obscurantisme + et qui DÉFENDAIT la liberté + d'expression\\ ++

(2) 全国追悼と半旗

- 11 ces ^{FS4}{hommes/} + ^{FS5}{cette femme/} + sont morts/ pour:: + l'idée/ qu'ils se faisaient de la
- 12 france\ + c'est à dire/ + la Liberté\\ ++ je veux ici en votre nom + dire/ toute notre reconnaissance\ +

13 aux familles + aux éprouvés + aux blessés + aux PROches à tous ceux qui euh: +++ sont
 14 aujourd'hui meurTRIs + dans leur CHAIr\ + par: ce lâche + assassinat\\ +++ ce sont + aujourd'hui/
 15 nos héros\ +++ et c'est pourquoi + demain + sera/ + une journée/ ++ de deuil/ national je l'ai
 16 décrété\ +++ il y aura/ à DOUze heures\ +++ un moment/ + de recueillement dans tous les services
 17 publics\ + j'invite ^{FS6}{TOUTE la population} à s'y associer\ + les drapeaux/ seront en berne trois
 18 jours\\ ++

(3) 自由の表現の毀損

19 aujourd' ^{HS8}[D'HUI/ c'est la RÉPUBLIQUE] tout entiÈRE\ qui a été agressée\\ + ^{HS9}[la république]
 20 ^{HS10}[c'est la libérté] d'expression\\ + la république/ ^{HS11}[c'est la culTU:re] c'est la CRÉAtion c'est le
 21 pluralisme c'est la démocratie ^{HS12}[+ c'est ÇA] qui était visé ++ par les assassins\\ c'est l'idéal de
 22 justice et de PAIX ++ que la france porte PARTOUT sur la scène internationale\ +++ et euh:: + ce
 23 message\ ++ de PAIX\ +++ de Tolérance + que:: nous défendons aussi à travers nos soldats +++
 24 pour lutter contre le terrorisme\ + et le fondamentalisme\\ ++

(4) 犯人の早期逮捕

25 ^{HS13}[la france] a reçu des messages de solidarité/ + et de fraternité/ du MONde entier\ ++ et nous
 26 devons euh: en prendre toute la mesure\\ ++ nous devons RÉPONdre +++ à la hauteur du CRIme

27 qui nous FRappe\ d'abord/ +++ en + recherchant\ ++ les auteu::rs: de cette infamie\ ++ et: de faire
 28 en sorte qu'ils puissent être ARRÊtés\ +++ puis ensuite/ JUgés\ +++ et PUnis ++ très sévèrement\
 29 ++ et TOUT sera fait + pour les appréhender\ aujourd'hui/ une enquê te avance/ + sous euh:
 30 l'autorité de la justice\

(5) 今後の警戒態勢

31 >nous devons< AUSSI protéger TOUS les lieux publics\ + et le gouvernement ++ a mis en ^{Id5}place/
 32 ce qu'on appelle le le plan vigipirate AttenTats\++ >c'est à dire que des< forces de sécurité vont
 33 être déployées + PArtout+\ ++ là où il peut y avoir +++ le début d'une menace\ +++

(6) 団結への呼びかけ

34 enFIN/ + nous + devons +++ être ++ NOUS-mêmes\ ++ conscients que notre meilleure Arme +
 35 c'est notre unité\ + l'unité euh: ++ de tous euh: ++ nos concitoyens + face à cette
 36 >épreuve\ ^{HS14}[RIEN]< ne peut nous diviser ++ RIEN ne doit nous >opposer ^{HS15}[RIEN]< + ne doit
 37 nous séparer\ +++ deMAIN/ je réunirai/ les présidents des deux assemblées/ ++ ainsi que + les
 38 euh:: forces représentées au parlement\ + pour montrer/ notre comMUNE/ détermination\ +++ la
 39 FRANCE ^{HS16}[elle est GRANDE + quand elle est CAPable ^{FS7}{DANS UNE épreuve+} de:] + se
 40 mettre au meilleur niveau\ ^{HS17}[± c'est à dire] + ^{FS8}{à SON niveau\ ++ le NIVEAU euh: +} qui a

41 toujours fait que la FRANce\ + a + pu surmonter des épreuves\\ +++ la liberté/ sera toujours plus
 42 forte que la barbarie\\ ++ >la FRANce ^{FS9}{elle a >TOUJOURS vaincu ses ennemis/<} quand elle a
 43 su ^{HS18}[justement] faire BLOC< auTOUR + de SES valeurs\\ ++ c'est ce que je vous invite à
 44 faire\\ + >le Rassemblement ^{HS19}[le Rassemble] ment de TOUS< sous toutes ses formes + VOILÀ
 45 ce qui doit être notre réponse\ + Rassemblons-nous + Face À cette épreuve/ ^{HS20}[et nous]
 46 Gagnons\ car nous avons + TOUTES les CAPACITÉS de croire en notre destin et RIEn ne pourra +
 47 nous faire ++ FLÉCHIr de la détermination qui est la nôtre\\ Rassemblons-nous\\ ++ Vive la
 48 république\ + et Vive la france\

参考資料 2 : 街頭コーパス

(Source : https://www.youtube.com/watch?v=b4_5dUK71M4)

(1) 事件の紹介と死傷者数

- 1 ^{FS1}{il y a un Acte:: + +++ une exceptionnelle barbarie + vient d'être commis ici::} à paris\ ++ contre
2 un journal\ ^{FS2}{un journal/ c'est à dire l'expression\ de la liberté} contre des journalistes\ qui euh::
3 +++ avaient toujours\ voulu montrer qu'ils pouvaient aGI::r + en FRANce ++ pour: + défendre
4 leurs idées\ et pour avoir justement cette liberté que la république protège\\ il y A:vait également des
5 policiers pour les protéger\ ++ ceux Là/ journalistes/ policiers/ ont été euh lâchement
6 assassinés\\ ++ il y a au moment où je m'exprime/ ^{FS3}{+++ onze...++ personnes ++ qui sont
7 mortes\ QUAtre qui sont en situation d'urgence absolue\\} + ((nous)) n'avons pas enCOre le compte
8 définitif\ ++ de: TOUTES les victimes\\ + mais il y a quarante personnes qui sont MAINtenant euh
9 +++ protégées/ et qui euh: sont SAUves\\ +++ nous aurons euh: dans quelques HEUres:: le bilan
10 exacte\\

(2) 政府の今後の対応

- 11 je réunirai euh + >tout à l'heure à 14 HEUres à l'élysée les ministres et les responsables< + qui euh:
12 sont Directemen:t maintenant concernés ++ par la protection\ que nous devons assurer ++ à >tous

- 13 les lieux< OU euh< + de mêmes ACTES pourraient être renouvelés\ +par les mêmes barbares\ ++
14 et : nous avons donc + engagé le plan vigipirate/ attentat\

(3) 犯人の逮捕と処罰

- 15 il y a aussi euh des actions qui sont immédiatement lancées/ suite à l'agression/ pour retrouver/ les
16 auteurs/ de ces actes\ ils seront pourchassés + aussi longtemps que nécessaire pour qu'ils puissent
17 être arrêtés/ et traduits devant les JUges et condamnés\

(4) 事件後のフランスの状況

- 18 la FRANCE:: ++ est aujourd'hui devant un CHOC + un ^{FS4}{CHOC: qui est celui d'un attentat/
19 ^{HS1}[car] c'est un ATTENTAT\} +++ terroRistes\ ça ne fait PAS de DOUte ++ et par raPPort + à ++
20 un journal qui avait été toujours menacé\ ^{HS2}[et qui était ++] justement protégé\

(5) 団結への呼びかけ

- 21 dans ces moments là/ + il faut faire >également bloc< ++ montrer que nous sommes un pays uni ++
22 nous savons euh réagir comme il convient\ >c'est à dire< avec FERmeté\ ++ mais avec toujours le
23 souci de l'unité nationale\ + tel sera ++ mon comportement/ ma volonté/ tout au long + de ces +
24 >prochaines jours et de ces prochaines semaines//< j'aurai + une fois encore\ + à parler aux français/

25 car:: je l'avai:s dit/ nous sommes dans un moment ^{FS5}{EXtrêmement difficile/} >plusieurs attentats

26 terroristes avaient été< déjoués ces dernières semaines// ^{HS3}[nous savions que nous étions euh]

27 menacés/ comme: + d'ailleurs:\ d'autre pays dans le monde// nous sommes + >menacés parce que

28 nous sommes un pays de liberté< >et parce que nous sommes un pays de liberté/< nous conjurons

29 des menaces/ et nous euh punirons + les agresseurs\\ PERSONne + doit penser ++ qu'il peut

30 aGir\ en france/ contrairement aux principes de la république/ et atTEINDre\ l'esprit même >de la

31 république c'est à dire un journal<

(6) 事件の深刻さと今後の態勢

32 et je pense: aujourd'hui/ ++ à ces victimes\\ +++ onze personnes sont mortes quatre sont entre la vie

33 et la mort// nous en sommes là/ et nous aurons à cœur/ de trouver des responsables/ et d'appeler

34 autant qu'il est possible/ à l'unité nationale\\ merci\\